

年度末報告会にむけて ～来年度につなぐ～

ハイライト：

- ・年度末報告会を、進化の場に（ねらい）
- ・具体的な子どもの姿と手だてを発信しましょう。（内容）
- ・年度末報告会の進め方
- ・特別支援学級の授業を生かす。
- ・授業整理会は、次のように進めます。

年度末報告会を、進化の場に（ねらい）

2月28日（火）に年度末報告会を行います。まず、「年度末報告会」を行うねらいについて説明します。ねらいは、次の3つになります。

- ① 情報共有による授業改善の進化
- ② 自己実践評価による授業改善の進化
- ③ 来年度の授業改善の方向性の明確化

本年度の主題研究は、近接学年というチームで授業づくりを行ってきました。

公開授業と日常授業参観指導を通して、成果と課題が少しずつ明らかになり、夏休みに行った中間報告会では、それぞれの成果と課題を発信し合い、共有していくことで、2学期以降の授業づくりに生かしていくことができました。

そこで、平成23年度末を迎えるこの時期に、1年間の授業改善についてお互いの情報を共有し評価し合うことで、さらなる進化をめざしていきましょう。

中間報告会の際にも述べましたが、「年度末報告会」で発信していく内容を

検討していくことは、1年間に行った実践を自ら評価していくことになります。自分の指導のよさと改善点を分析していくことで、来年度の授業改善の方策をより明確にしていきましょう。

評価は、「基礎的・基本的な知識・技能の習得・活用を図る学習指導」という本年度の研究テーマをもとに行っていきます。さらに、21日に行った提案授業の授業整理会で協議した「子どもの目が輝く授業」「聴き合い・語り合い」というキーワードをもとに、自分たちの実践をふり返っていくことも、来年度の方向性を具体化していくことにつながっていきます。

子どもたちの目が輝く授業をつくり出していくために、1年間で学んだアイデアを出し合い、よさを取り入れていきましょう。

具体的な子どもの姿と手だてを発信しましょう。（内容）

年度末報告会では、それぞれの部会から実践報告をします。では、その内容は、どのようなものになるでしょうか。

まずは、中間報告会における各部会の成果と課題をふり返ってみましょう。そこでの成果と課題をもとに、2学期以降の実践が積み重ねられてきたのです。その過程で基礎的・基本的な知識・技能を活用する（習得する）子ども姿を見取ることができました。その子どもの姿を具体的に示し、「な

ぜその姿を生み出すことができたのか」有効だった手だてを発信していきましょう。

また、十分に達成できなかった子どもの姿も示し、その要因と改善策も発信していくことも大切です。そのことが来年度の方向性を明確にしていきます。

授業整理会で、講師の先生や管理職の先生方から指導・助言していただくことを、自分たちの言葉で発信していけば、よりわかりやすく価値のある報告になるでしょう。

年度末報告会の進め方

年度末報告会は2月28日(火)です。
報告会の進行については、基本的に中間報告会と同様となります。

各部会からの報告を、自分の部会の実践と重ね合わせて考え、協議を深めていきましょう。職員による「聴き合い・語り合い」を生み出すことができれば、職員の目が輝き、「年度末報告会」が有意義なものとなります。

具体的計画は下記のようになります。

2/21	近接学年会・個別 内容協議・プレゼン作成
2/23	研究推進委員会 進捗状況確認・調整
2/27	研究推進委員会 プレゼン確認・調整

【年度末報告会】

2月28日(火) 15:15~16:40

於：軽運動室

司会(井上) 記録(松原)

○年度末報告会意義：井上(3分)

○実践報告①：低学年(7分)

協議(7分) ※報告(柴田)

○実践報告②：中学年(7分)

協議(7分) ※報告(植田)

○実践報告③：高学年(7分)

協議(7分) ※報告(安部)

○全体総括(5分) 井上

○指導・助言

安部指導主事【授業】(10分)

山崎教頭【組織】(10分)

田村先生【全体】(10分)



来年度にむけて、
授業づくりのレベルアップを図りましょう。

特別支援学級の授業を生かす

2月21日に一般研修として特別支援学級の公開授業が行われます。今回の授業では、高倉学級で算数の学習を、松原学級で国語の学習を公開していただくことになっています。

公開授業にのぞむスタンスは、自分の学級にいる配慮を要する子どもたちにとって有効な手だてを考えていくということです。

松原学級の国語の学習では、文章を書く時に、主語が抜けたり、会話文のかきかっこを忘れたりする子どもたちに、きめ細やかな支援が施されています。

具体的には、短文づくりのゲームを取り入れたり、文章を書く原稿用紙を工夫したりしています。

高倉学級の算数の学習では、解き方の説明を筋道立てて行うことができるように、きめ細やかな支援が施されています。

具体的には、説明お助けカードや教師の助言の工夫となります。カードの内容や助言の内容・タイミングをしっかりと見取っていきましょう。

特別支援学級の授業を生かしていくことは、とても大切なことです。

授業整理会は、次のように進めます。

司会(井上) 記録(川見)	於：会議室
1 講師紹介(教頭)	15:15
2 協議	15:20~15:40
3 指導助言	15:40~16:10
柴田指導主事	
4 謝辞・まとめ(安部)	16:15

※協議のポイント

○算数の学習における配慮を要する子どもへの手だて

○国語の学習における配慮を要する子どもへの手だて

※前回、提案授業で行ったKJ法で行います。

※公開授業写真(植田)

